

ボランティアに 光を灯す

今号では、全校専門ボランティア委員会の活動を紹介していきます。ボランティア委員会は、「ボランティアに光を」をビジョンに活動しています。今月からボランティア委員会は、古本回収を行ったり、日めくりカレンダーを学級に設置したりしています。

古本回収では、自分から進んでボランティア活動に取り組みきっかけを作っています。限りある資源を有効に活用し、SDGsの観点から環境や教育に貢献できるようにしています。

日めくりカレンダーは、立花先生を中心に、多くの先生方の協力によって制作されたものです。日めくりカレンダーには、一日一つ、「自立って何だろう?」や「何のために勉強するの?」など、私た

ちの生活に身近な問いが書かれています。その問いについての自分の考えを友達などと共有することで、生徒の学校生活に対する態度やモチベーションを高められるのではないのでしょうか。

また、ボランティア委員会は今後、地域環境改善のための活動をしたり、各学級での独自の活動を新聞にまとめたりする予定です。

ぜひ、これらのボランティア委員会の活動に積極的に参加し、附属中のボランティアに光を灯すことのできる一員になってみてはどうでしょうか。



全校専門ボランティア委員会からの手書きメッセージ

みなさんはボランティアとはどこにあると思いますか。私たちがボランティア委員会は身近な所に多く潜んでいると考えています。日常生活の中でそれを見つけていくのは難しいことです。ですが、ボランティアは相手に対する「思いやり」がその第一歩となるのではないのでしょうか。そこでみなさん、私たちが企画する活動に協力することを通して身近にあるボランティアを意識するところから始めてみませんか。

No.18 ともにあちから③

「困った」を見つける

困っていることがあっても、自分では気づけないことがある。また、気づいていても、自分では声をあげることができないこともある。誰かの「困った」を先に見つけられるようになりたい。

▼ そんなときには

- 思わず口にしてしまう「グチ」や「マイナスな言葉」を聞いたら、どんなときに発されたものかを確認してみよう。
- 「私もこういうことで困っているんだよね」と声をかけてみよう。
- 「こうやったら解決するかもしれない」と解決策を提案してみよう。

仲間の「困った」を見つける自分の「困った」も見つける「困った」は一緒に解決する

No.21 こたえるちから③

宮附を背負う

70年以上の伝統を継々と受け継いできた宮大附属中。毎年メンバーは変わっても、ずっと変わらない文化がある。そんな宮大附属中の文化を継承し、次の世代にバトンパスしていきたい。

▼ そんなときには

- 宮大附属中が脈々と受け継いできた文化を探ってみよう。
- 宮大附属中の文化をどんなふうに関心を持っていくとよいのか、自分なりに考えてみよう。
- 自分の姿・ふるまいが宮大附属中の「象徴」となっていることを自覚して学校内外での生活を送ろう。

自分の背中に宮附の看板自分が宮附の象徴になるその責任が自分を伸ばす



「あつとがき」
(編集時点九月十三日)
いやあ、夏休み終わっちゃいましたねえ、(夏休み終わったのだいぶん前・・・)
雨も降ってくるようになって、毎朝ドヨヨーンとしている、どうも坪井です。みなさんは、晴れ派ですか?それとも雨派ですか?毎朝ドヨヨーンとか言ってる割に、僕は雨派です(笑)
つという話は置いて、いよいよ選挙運動が活発化してきました。この生徒会もついに代替わりです、カナシイデスネ。新生徒会は、どのような顔が出そうなのでしょう?これからがちょっと楽しみな会計人です。
新生徒会に代替わりしても、新聞発行は続けられるつもりです、で、どうぞよろしく(笑)とは言っても、あと一回発行あるんですけどね(笑)ではまた次回!!